

題 目 稲作栽培様式が人々の心理に与える影響—ベトナム地域間比較を通じた検討—

氏 名 神明里

指導教員 結城雅樹

中国国内比較を通じて生業形態と文化の関係を検討する先行研究で、稲作地域の人は包括的に物事を考える傾向と相互協調的自己観を持つ傾向があり、麦作地域の人は分析的に物事を考える傾向と相互独立的自己観を持つ傾向がある、ということが発見された (Talhelm et al., 2014)。Talhelm et al. (2014) は、稲作地域と麦作地域間に存在する文化差の原因を2つの生業間の相互協力の必要性の程度の差に注目して説明している。稲作地域では、灌漑を維持・管理するため、また、麦作と比べて2倍もの労働力を要する作業を行うために、コミュニティ内の相互協力の必要性が高い。ゆえに、相互協力の必要性が高い稲作地域は相互協調的な文化であり、稲作地域に比べて相互協力の必要性が低い麦作地域は相互独立的な文化であるだろうと考察している。しかし、Talhelm et al. (2014) の研究は、米と麦という異なる作物を取り扱っているため、稲作と麦作間に存在する相互協力の必要性以外の異なる点を統制しきれていない。つまり、コミュニティ内の相互協力の必要性の程度の差が稲作地域と麦作地域の文化差の要因だとは言いきれていない。そこで、本研究では、同じ稲作という生業でコミュニティ内の相互協力の必要性が異なる二つの稲作栽培様式に注目した。相互協力の必要性の高い移植栽培を行うベトナム北部の紅河デルタと相互協力の必要性が低い直播浮稲栽培を行うベトナム南部のメコンデルタを調査対象地として、コミュニティ内の相互協力必要性の程度の差が人々の心理・行動傾向に与える影響をより直接的に検証した。その検証のために、6つの指標を用いて、各地域出身者の心理傾向（関係流動性、文化的思考、友人との親密性、自尊心、文化的自己観、社会の称賛量・批判量）を測定し、出身地域別に差がないか検討した。その結果、紅河デルタ出身者は、自尊心は低く、拒否回避と調和追求の傾向は高いこと、メコンデルタ出身者は、自尊心は高く、拒否回避と調和追求の傾向は低いことが発見された。この結果から、相互協力の必要性が高い移植栽培地域は相互協調的な心理傾向であるが、相互協力の必要性が低い直播浮稲栽培地域では相互独立的な心理傾向であることが示唆された。関係流動性や文化的思考、友人との親密性、社会の称賛量・批判量には有意な地域差は見られなかったが、ベトナム国としての心理傾向は、集団主義的だと考えられている国よりも、個人主義的だと考えられている国に近い傾向だった。